

目 次

目的と進め方

—施設環境づくりは、何を目指し、どう進めるのか—

1. 施設環境づくりの目的／1
2. 施設環境づくりの進め方／2
3. 本書の使い方／3

STEP1

—痴呆ケアと環境への理解を深める—

1. 施設環境の課題と方向性／3
2. 痴呆性高齢者への環境支援の基本的考え方／3
3. 痴呆性高齢者への環境支援指針 (PEAP日本版3) /4

STEP2

—環境課題を抽出する—

4. キャプション評価法の実施／7
5. キャプション評価法による課題の抽出／9

STEP3

—環境改善計画を考える—

6. 取り組みチームづくり／11
7. チームで課題を整理する／11
8. 環境改善計画の作成／12

STEP4

—実施計画を実施する—

9. 実施計画の作成と実施／13

STEP5

—改善した環境を使いこなす—

10. ケアプラン・生活プランに取り入れる／14
11. 改善した環境の維持・見直し／14

STEP6

—環境づくりの効果を確かめる—

12. 環境作りを記録する／15
13. 評価の方法／15
14. 取り組みの評価／15

【参考資料】 取り組みのプロセスの評価／16 痴呆性高齢者施設環境配慮尺度／17
個別配慮チェックリスト／18 チェックリストのまとめ方／19
キャプションカード書式／20 環境づくり事前事後シート／21

目的と進め方

—施設環境づくりは、何を指し、どう進めるのか—

1 施設環境づくりの目的

◇◆環境改善から生活やケアの質の向上へ◆◇

痴呆ケアにおいて、環境整備の重要性が注目されてきています。しかし、痴呆ケアに環境整備が重要であることはわかっているにもかかわらず、施設で働く一人ひとりのケアワーカーにとっては、施設の環境を変えることは容易ではなく、「与えられた環境の中でケアをするしかない」と考えてしまいがちです。

一方、近年、全室個室やユニット型といった施設も増え始め、施設においても小規模かつ家庭的な環境を活かした個別的なケアへの取り組みが拡大し、ケアの質につながる施設の環境整備を、建築計画の段階から視野に入れて整備された施設も増えてきました。

そのような動きに触発されて、既存の施設でも改善への機運は高く、環境改善をして、その環境を活かした個別的ケアの実現を図る考え方が次第に広まりつつあります。

こうして、痴呆ケアにおいて、生活やケアの向上には、環境整備が不可欠であることが、多くのケアワーカーに意識されるようになってきました。

そこで、本書は施設のケアワーカーに「あなたの施設で、あなたが（あなたたちが）取り組める環境整備」を、「実践的に」紹介するために企画されました。

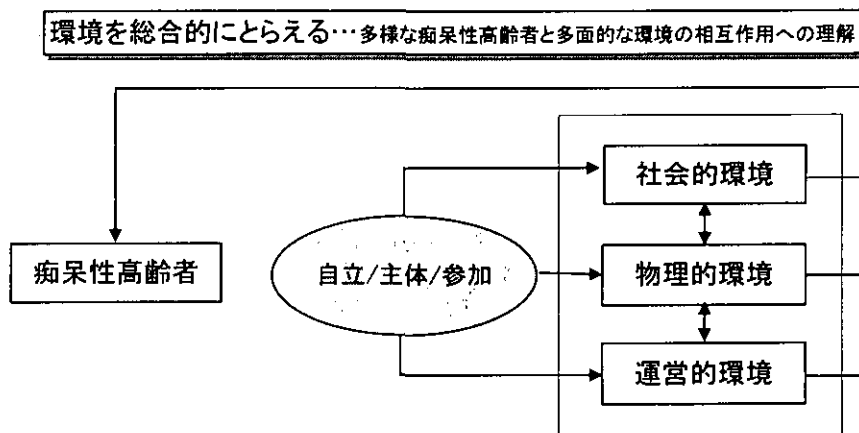
ケアワーカーがよいケアを目指すために、環境づくりに取り組む…すなわち、施設環境づくりの目的は、「よいケアの実現」です。

施設環境づくりは、大工事によって行うものばかりではありません。大工事を伴わないレベルで、施設のケアスタッフが取り組める環境改善が多数あります。本書はそのような取り組みを実践できるよう、学ぶ教材として制作したものです。

この本を片手に、あなたも、あなたの施設で、できることから取り組んでみましょう！

◇◆環境を総合的にとらえよう◆◇

施設環境は、建築や設備などの「物理的環境」、スタッフの関わり方などの「社会的環境」、施設のケア方針などの「運営的環境」から構成されています。これらを総合的な環境としてとらえて、一貫性のある環境作りを行うことが、入居者の生活の質を向上させるうえで大切です。



◇◆ケアスタッフの環境への意識の向上◆◇

環境づくりを実施して快適な環境が実現すればゴールというわけではなく、個々の高齢者に合わせた調整や、ケアに取り入れていく試みが継続的に行われることが大切です。

ケアスタッフ自身が環境づくりに取り組む中で、ケアスタッフの環境への意識が向上し、整備した環境を活かしたよりよいケアができるようになり、ケアの質の向上につながります。

2 施設環境づくりの進め方

ケアスタッフが施設の環境づくりに取り組む際には、右の図に示す6つのステップに沿って進めていくとよいでしょう。

業務の中で取り組むことを考えると、年間計画や月間計画の中に、各ステップを位置づけ、施設全体や取り組むチームのメンバーで「現在どのステップまで進んだか」を共有しながら計画的に進めることも、有効な方法でしょう。

3 本書の使い方

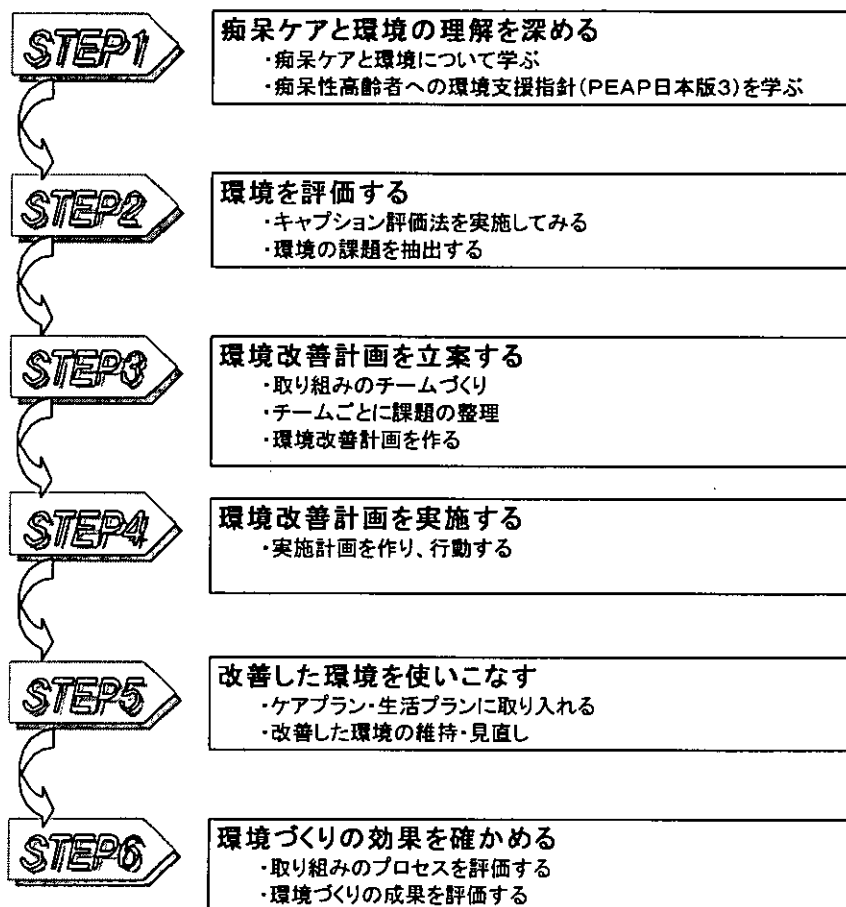
この本は、施設でケアスタッフが環境づくりに取り組む際のリーダーのための研修会でテキストとして使用することができます。

また、研修で学んだことを施設に持ち帰り、他のケアスタッフや取り組みチームのメンバーとともに実践に移す際に、本書の6つのステップを参照しながら

現場で取り組むことができるように作成してあります。「同じように実践してみる」ためのハンドブックとして活用してください。

巻末には、取り組みにあたって必要となる書式を原寸大で添付しているので、これらをコピーして記入しながら進めることができます。

施設の環境づくりの進め方 -6つのステップ-



STEP 1

—痴呆ケアと環境への理解を深める—

1 施設環境の課題と方向性

◆◆痴呆性高齢者の増加と施設における痴呆ケアの必要性◆◆

わが国の痴呆性高齢者数は、2000年に156万人、2015年には262万人まで増加すると推計されています。

高齢者施設における痴呆性高齢者の入居状況			
	指定介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	介護老人保健施設 (老人保健施設)	介護療養型病床群 (療養型病床群)
入居者数	309,740 人	223,895 人	109,329 人
痴呆性高齢者の割合	92.0 %	90.9 %	92.1 %

このような急激な増加

資料：平成13年介護サービス施設・事業者調査(厚生労働省)

は、高齢者施設における痴呆性高齢者の入居状況にも反映されています。

3種の介護保険施設のいずれにおいても、入居者の9割以上が痴呆症状を有することが明らかになっています。また、その症状は、介護を必要とするランクⅢ以上が半数以上を占めています。

施設のケアにおいて、痴呆ケアは不可欠な要素となっており、施設的环境整備において、痴呆ケアのための環境づくりが欠かせない状況であることが言えるでしょう。

◆◆痴呆性高齢者への環境の現状と目指す方向◆◆

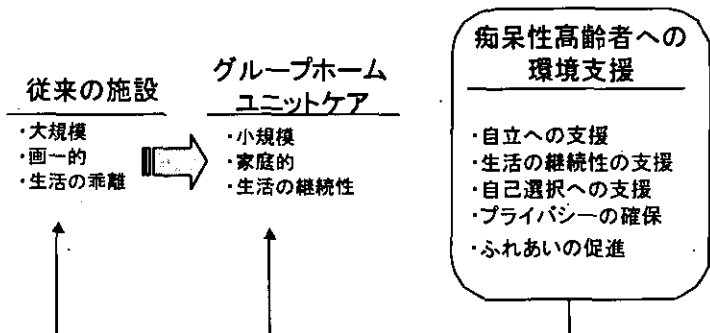
痴呆性高齢者への環境支援として大切な要素に「自立への支援」「生活の継続性の支援」「自己選択への支援」「プライバシーの確保」「ふれあいの促進」などがあります。

従来の施設的环境は、「大規模」「画一的」「それまでの生活とかけ離れた生活」となりがちな側面がありますが、上記の要素を取り入れることによって改善を図ることができるでしょう。

また、グループホームやユニットケアなどの小グループケアを視野に入れた施設では、「小規模」「家庭的」「生活の継続性」を実現しやすい条件を備えているので、上記の要素を積極的に取り入れれば、より効果的な環境支援の実現を図ることができます。

施設入居者の9割以上が痴呆を持っており、その半数以上が痴呆ケアの対象となる中で、今後の施設的环境作りは、小規模、家庭的な環境づくりが、基本的な方向となるということを、意識しましょう。

痴呆性高齢者への環境の現状と目指す方向—小規模・家庭的な環境へ—



2 痴呆性高齢者への環境支援の基本的考え方

◆◆痴呆症状を背景とする生活上のさまざまな問題◆◆

痴呆症状には、痴呆になればだれにでも現れる基本的な症状＝「中核症状」と、その人の生活歴や生活環境、性格などによって、中核症状がもとになって出現する「周辺症状」とがあります。これらの痴呆症状があるため

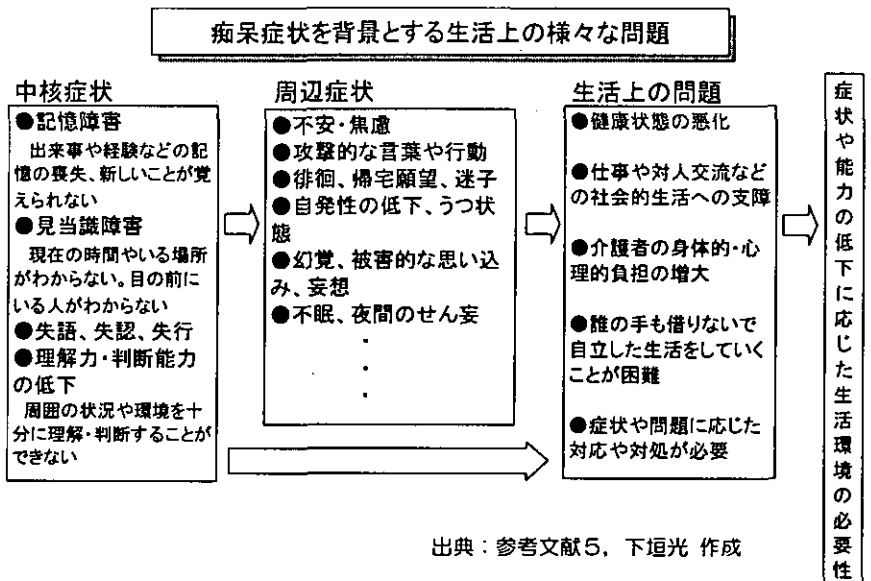
に、日常生活を送る上で支障となる

「生活上の問題」が出現します。

この生活上の問題に対応するために、症状や能力の低下に応じた環境を準備して支援することが必要となります。

◆◆痴呆性高齢者の生活をめぐる課題と支援◆◆

では、具体的に、痴呆性高齢者の生活上の問題に対応するために、「痴呆性高齢者の生活をめぐる課題」を整理してみると、下の図のような課題とそれに応じた支援のあり方が見えてきます。



痴呆性高齢者の生活をめぐる課題と支援

課題

- ①ケアの個別性が強い
- ②不安、混乱状態、心理的孤立の存在
- ③見過ごされやすい残存能力

支援

- ①「個別性」を重視したケア
- ②「安心」できる関係や環境づくり
- ③残存能力が発揮できる機会をつくる

3 痴呆性高齢者への環境支援指針（PEAP日本版3）

痴呆性高齢者の環境支援を具体化するための研究は、アメリカを中心に1990年代以降盛んとなり、さまざまな環境評価尺度が作られました。その中の一つに、PEAP（「Professional Environmental Assessment Protocol」1996年、ワイズマン他）があります。わが国でも痴呆ケアの環境支援についての研究が進められており、PEAPをわが国の実情に即して使えるようにした「PEAP日本版3」が開発されました。

本書では、この「PEAP日本版3」を使って環境整備を進める手法を学びましょう。

「PEAP日本版3」は痴呆性高齢者への環境支援に重要な8つの次元と具体的な内容を示す31の中項目より構成されています。下の図で整理して、理解しましょう。

ポイント!

PEAP日本版3とは… ー痴呆性高齢者への環境支援の具体的指針ー

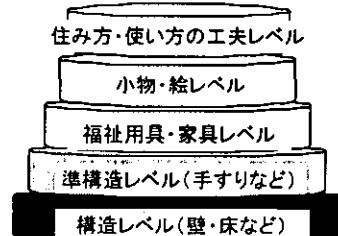
PEAPとは…?

痴呆性高齢者の自立やライフスタイルの継続などのニーズに焦点を当て、それにふさわしい環境を、施設の物理的環境など幅広い要素を考慮して実践するための指針

PEAPの8つの次元

1. 見当識への支援
2. 機能的な能力への支援
3. 環境における刺激の質と調整
4. 安全と安心への支援
5. 生活の継続性への支援
6. 自己選択への支援
7. プライバシーの確保
8. ふれあいの促進

取り組みのレベル



* 『痴呆性高齢者にふさわしい生活環境に関する研究』（平成13,14,15年 児玉桂子他）

STEP 1

つづき

ピーフ
-PEAP日本版3を理解しよう-

痴呆性高齢者への環境支援のための指針（PEAP日本版3）の8つの次元（大項目）と31の中項目を、事例の写真とともに見てみましょう。

1. 「見当識への支援」

【定義】環境の物理的・社会的・時間的次元の効果が、利用者の見当識を最大限に引き出すような環境支援についての指針

1) 環境における情報の活用

入居者の見当識を効果的に支援するために、目印や図柄、色などを活用する。



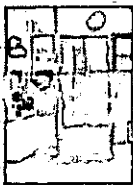
2) 時間・空間の認知に対する支援

毎日の生活の安定を図るために、時間、空間、出来事に対する見当識を効果的に支援する。



3) 空間や居場所のやりやすさ

通常の施設環境は画一的になりやすいが、痴呆のある入居者にとって、自分がどこにいるかが分かりやすい空間への配慮をする。



4) 視界の確保

生活に必要な場所が、視界に入るように配慮することにより、入居者の安定を図る。

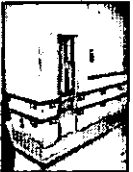


2. 「機能的な能力への支援」

【定義】日常生活動作（移動、整容、排泄など）への援助において、入居者の日常生活上の自立活動を支え、さらに継続していくための環境支援の指針。

1) セルフケアにおいて、入居者の自立能力を高めるための支援

入居者の排泄、入浴、整容、衣服の着脱動作について、可能な限り入居者の自立能力を高める支援を行う。



2) 食事が自立できるための支援

食事は重要な日課であるが、痴呆がある入居者には困難を伴う場合もある。しかし、意欲を持って食事ができるような環境支援を行うことが必要である。



3) 調理、洗濯、買い物などの活動の支援

調理や洗濯、買い物などの日常生活において必要な行動を、できるだけ自立してできるように環境支援を行う。

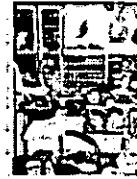


3. 「環境における刺激の質と調整」

【定義】入居者の適応や完成に望ましい刺激、ストレスにならない刺激の質や調整への指針。環境における刺激の質と環境における刺激の調整に分けてとらえる。

～環境における刺激の質～

1) 意味のある良質な音の提供
入居者にとって意味のある、良質な音を生活に取り入れる。



2) 視覚的刺激による環境への適応

不快な刺激を取り除くだけでなく、視覚的刺激により環境への適応を引き出す。



3) 香りによる感性への働きかけ
嗅覚の刺激を取り入れることにより、入居者の感性に働きかける。



4) 柔らかな素材の提供

施設で使用されやすい硬い素材よりも、家庭で用いられる柔らかな素材を使用する。



～環境における刺激の調整～

1) 生活の妨げとなるような騒音の調整

音刺激の影響をふり分けるとは難しく、ここでは入居者の落ち着いた生活の妨げとなる騒音について注目する。



2) 適切な視覚的刺激の提供

人は視覚的刺激により周りの世界を把握している。したがって、混乱を与えない、適切な視覚的刺激を提供する。



3) 不快な臭いの調整

環境の中に「不快な臭い」が、長時間にわたり広く存在しないように調整する。

4) 床などの材質の変化による危険への配慮

床などの材質などを変える場合には、危険への配慮が必要である。

4. 「安全と安心への支援」

【定義】入居者の安全を脅かすものを最小限にとどめるとともに、入居者はじめ、スタッフや家族の安心を最大限に高めるような環境支援についての指針

1) 入居者の見守りのしやすさ

痴呆のある入居者にとり多くの潜在的な危険が存在するので、スタッフが自然な方法で入居者の状況や活動を容易に見守りやすい。加えて、入居者が不安や孤立感を感じたときに、容易にスタッフを捜すことができる。



2) 安全な日常生活の確保

痴呆のある入居者は認知障害と同時に身体的な低下も経験している。それらを補い、残存機能の保持を支援する環境条件を整える。



5. 「生活の継続性への支援」

【定義】個々人が慣れ親しんだ環境と生活様式を、①個人的なものの所有、②非施設的環境づくりの2つの側面からユニット内において実現するための指針。

1) 慣れ親しんだ行動様式とライフスタイルの継続への支援

入居者ができる限り慣れ親しんだ活動に参加し続けることができるように、また入居者の能力を最大限引き出すように、環境と施設方針の両側面から支援をする。



2) その人らしさの表現

個々人のライフスタイルの反映である家具や持ちものなどを自宅から持ち込むことを促し、自己実現を可能にする。



3) 家庭的な環境づくり

入居者自身の家具や装飾品に加えて、施設的でない家庭的な雰囲気環境づくりに多様な手段で取り組む。



6. 「自己選択への支援」

【定義】物理的環境や施設方針によって入居者の自己選択が図られるような環境支援についての指針。

1) 入居者への柔軟な対応

入居者が居場所や空間を選択することや入居者の行動に対して柔軟に対応する。



2) 空間や居場所の選択

環境の制限されがちな施設においても、空間や居場所の選択を可能にする。

3) いすや多くの小道具の存在

座る場所、関わりを持つ人や物、行われる活動のオプションを多く用意して選択の機会の増加を図る。



4) 居室での選択の余地

居室環境について、入居者自身が選択する余地を用意する。

7. 「プライバシーの確保」

【定義】入居者のニーズに対応して、ひとりになったり、他との交流が選択的に図れるような環境支援についての指針。

1) プライバシーに関する施設の方針

施設環境におけるプライバシーの確保には、スタッフの努力だけではなく施設全体の方針が大きく影響する。プライバシーの確保の考え方には、入居者のニーズに対応して、一人になれるだけでなく、他との交流が選択的に図れることも含まれる。



2) 居室におけるプライバシーの確保

プライベートな領域の中でもとりわけ居室は重要であり、プライバシーの確保と他との交流について、入居者が調整を図ることができる。



3) プライバシー確保のための空間の選択

入居者が居室などにおいて十分なプライバシーが確保できないときには、他の場所ですれを補うことができる。

8. 「ふれあいの促進」

【定義】入居者の社会的接触と相互作用を促進する環境支援と施設方針についての指針。

1) ふれあいを引き出す空間の提供

他の入居者とのふれあいの場を選択できるように用意する。



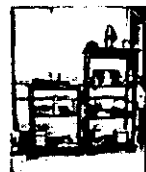
2) ふれあいを促進する家具やその配置

入居者のふれあいを促進するような家具を用意したり、その配置を工夫する。



3) ふれあいのきっかけとなる小道具の提供

ふれあいのきっかけとなる、入居者の関心を引く小道具を用意する。



4) 社会生活を支える

入居者の社会生活を支えるには、ふれあいの促進とともに一人である場所を確保することも大切である。



STEP2

—環境課題を抽出する—

4 キャプション評価法の実施

環境課題を抽出するために、環境を評価することが必要です。本書では、環境を評価する方法として、「キャプション評価法」を用いる方法を紹介します。

◆◆キャプション評価法とは？◆◆

「キャプション評価法」とは、評価者がカメラを持って評価する対象を撮影し、その写真をカードに貼り込み、カードの記入欄に、貼り込んだ写真にキャプションを付けるように評価者の感じたことを自由に書き込んで「キャプションカード」を作成、これを掲示または回覧して他の評価者と情報共有する中から共同作業で課題を抽出する、という方法です。

◆◆キャプション評価法の特徴・目的◆◆

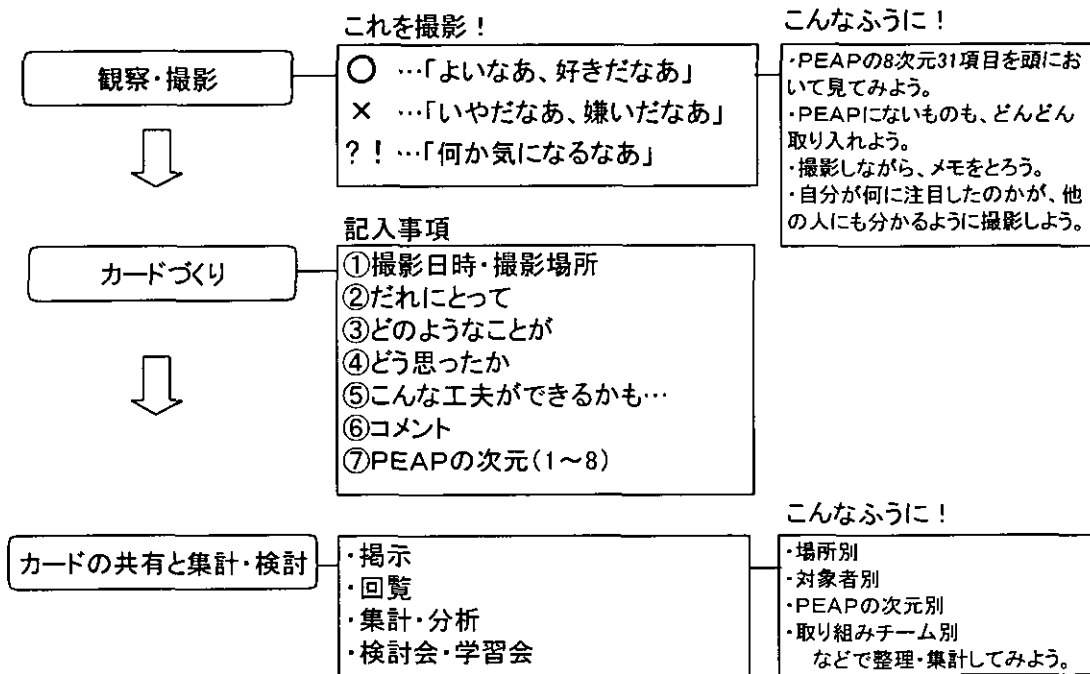
キャプション評価法は、観察、撮影、自由な意見記入といったプロセスをそれぞれの評価者が自分で行うという参加型・行動型の評価法です。施設のケアワーカー、入居者、家族など、施設環境に関わるさまざまな人が参加して行います。その課程で、さまざまな立場の評価者の感じたこと、考えたことを、他の評価者全員が理解し、共有し、それを踏まえた課題の共有化を図ることがこの方法の目的です。

また、「環境」という漠然と見てしまいがちな対象をカメラで切り取り、固定して、他者と情報共有していくことにより、発見と課題の認識に導くこともこの方法の目的の一つです。

◆◆キャプション評価法の実施手順◆◆

キャプション評価法を下の手順に従って実施してみましょう。

キャプション評価法の手順



【事例】：特別養護老人ホーム「たちばなホーム」（東京都墨田区）で「キャプション評価法」を実施した際には、129枚のキャプションカードが回収され、そのうち、「よい」が41枚、「悪い」が70枚、場所別では、廊下、居室、食堂が多かった。

◇◆キャプションカードを見てみよう、作ってみよう◆◇

キャプションカードの実物見本を見てみましょう。

施設内を見てまわり、写真を撮影します。

撮影した箇所が ○、×、?! のいずれか、○で囲みます。

撮影年月日を記入します。

だれにとってか、○をつけます。

「どのようなことが」…何に注目したかを簡潔に記入します。
例：「ケアステーションと向い合わせに置かれたいすの配置が」というように…

「どのように感じたか、思ったか」…感じたこと、思ったことを簡潔に記入します。
例：「病院の待合室のようで殺風景だ」というように…

「PEAP日本版3」の次元 1・2・3・4 (5)・6・7・8・その他

撮影場所を記入します。

PEAP日本版3のどの次元のどこかを選び○をつけます。(重複可)

他に何かコメントがあれば何でも記入します。

思いつく工夫を書いてみましょう。簡単にできそうなことから大がかりなことまで、どのような方法・手段でもかまいません。アイデアの見せどころです。

さあ、あなたも、あなたの施設でいっしょに環境整備に取り組むケアワーカー、入居者自身、入居者の家族に呼びかけて、あなたの施設でキャプションカードを作ってみましょう。

カードの書式は本書の巻末に付けてあります。コピーして利用してもよいでしょう。

また、裏面にキャプション評価法に参加した評価者のプロフィールをとり、写真と対応できるように整理をしておくともよいでしょう。

(キャプションカードの書式は巻末にあります。参考にしてください)

■□■キャプション評価法を詳しく知りたい人のために■□■

- ・小島隆矢氏、古賀登章氏、宗方淳氏らにより提唱されたものである。
- ・『よりよい環境創造のために 環境心理調査手法入門』日本建築学会編 2000年 技報堂出版

STEP2

つづき

—環境課題を抽出する—

5 キャプション評価法による課題の抽出

それぞれの評価者がカードを作り、多数のカードができました。
次は、「カードの共有と集計・検討」の段階に進みます。

◆◆キャプションカードを共有する◆◆

よく用いられる方法は、掲示です。一度に多くの人が同時に、話し合いながら、見ることができます。掲示をする際に、場所別、評価者別、PEAP日本版3の次元別など、いろいろな切り口で整理して掲示するとよいでしょう。8次元以外の建築構造や設備、使いにくさ、整理整頓などの使い方の課題も多く抽出されています。例えば、場所別に掲示して、「廊下」に多くのXカードが集まっているとすれば、施設の環境の中で廊下に課題があることが見えてきます。

共有の方法は、掲示だけでなく、「アルバムにして回覧する」「パソコンに取り込んでオンラインで共有する」など、いろいろ考えられます。また、カードを見た人のコメントを書き加える方法もおもしろいでしょう。

◆◆カード情報を集計してみる◆◆

施設の環境の課題を明確にする手段として、「カード情報を集計する」という方法があります。

ここでも、PEAP日本版3の次元別、場所別、評価者別など、さまざまな切り口で集計すると、課題が見えてくるでしょう。

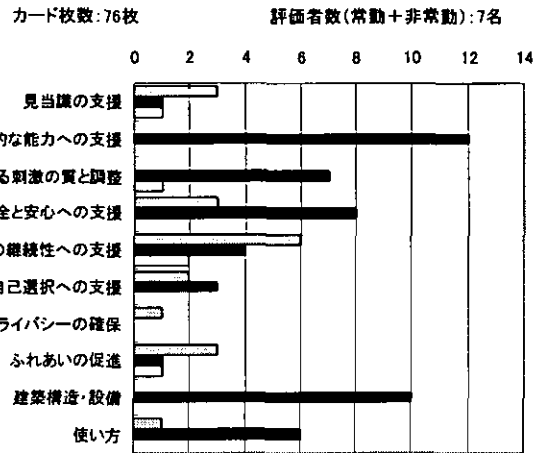
また、評価する際には、長所にも注目することが大切です。

◆◆カード情報からコメントを整理する◆◆

キャプションカードの評価を、件数として数えるだけでなく、コメントを整理して、環境づくりの手がかりとなるキーワードを抽出する方法も実施してみましょう。キャプション評価法では自由な記入をできるだけ活かす整理が有効です。コメントをPEAP日本版3の次元別に整理してみるのもよいでしょう。

【事例】特別養護老人ホーム「たちばなホーム」（東京都墨田区）ではキャプション評価から右の表のようなキーワードを抽出した。→

介入前の施設環境への着眼点 キャプション評価法



【事例】キャプション評価から抽出された6つのキーワード

<p>多様な交流を支える環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 談話コーナーは使われていないことが多い ・ いすがたくさん置かれているが、ここに座りたいという魅力に欠ける ・ ベランダの花づくりは良い話題になるだろう
<p>プライバシーへの配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食堂でのミーティングはプライバシーが守られない ・ フロアにある電話は落ち着いて話をするのができにくい ・ リネン室扉の掲示物は、プライバシーが守られていない ・ 家族宿泊室は家族とのつながりやプライバシーを保つことができる
<p>自己の予防と安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エレベーターの操作を制限している、階段の電気錠 ・ 見通しが悪く見守りにくい ・ 低床ベッドで転落防止に役だっている ・ トイレは片側にしか手すりがない
<p>快適な環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ステーションのカウンター上に物が置かれて清潔感がない ・ 掲示物がテープでとめられている ・ 食堂の壁が物置化している ・ 廊下の手すりは手触り良い
<p>生活を取りまく雰囲気</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 居室に永年愛用のタンスが持ち込まれたり個人のライフスタイルを尊重するしつらえ ・ 季節感のない殺風景な食堂 ・ 曇りガラスで景色が見えない ・ 病院のような単調な廊下
<p>入居者と介護者にとって使いやすい環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浴室の入り口が狭い、リフトなどの設置場所が使いづらい ・ 壁の介護や写真の位置が高い ・ 掲示物の時が小さい ・ 洗面台が高すぎる

◇◆総合評価をしてみよう◆◇

キャプション評価法からカードの掲示、閲覧等による情報の共有、集計・分析等による課題の抽出を行ってきました。以上を踏まえて、総合的に評価してみましょう。

施設のケアワーカー、環境改善に取り組むチームメンバーが集まって、学習会、検討会を持つのも、課題を共有するために有効です。

◇◆行動につながる課題の整理◆◇

課題を共有したら、次は、行動につながるように課題を整理しましょう。

次のような柱建てによって分類すると、起こすべき行動が見えてくるでしょう。

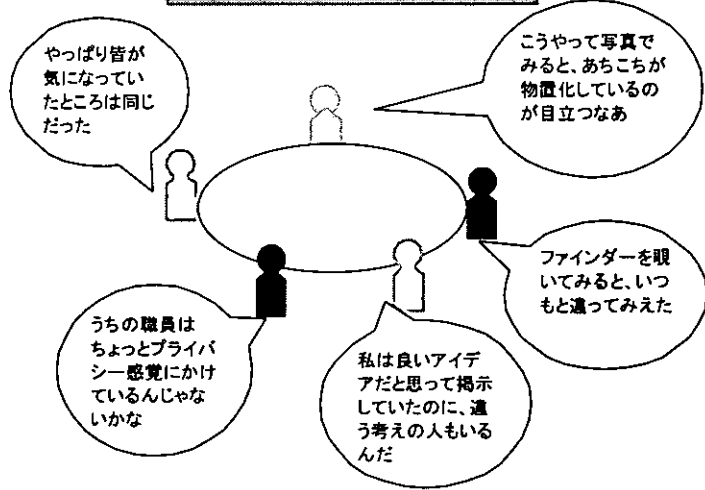
課題整理の柱建て(例)

- ・全体で取り組むことはなにか？
- ・プロジェクトチーム単位で取り組むことはなにか？
- ・すぐに改善する必要があるのはなにか？
- ・計画的に取り組むことはなにか？
- ・費用や時間をかけず、少しずつできることはなにか？
- ・おおがかりな工事や備品の購入などが必要なことはなにか？
- ・ケアワーカーだけでできることはなにか？
- ・協力者を巻き込んで取り組むことはなにか？

整理に当たって、優先順位を協議し、実現に向けた話し合いにしていくことが大切です。

STEP3 ~ **STEP5** は、実際に施設のグループケアの中で環境改善に取り組むための実践方法を、事例を通して紹介します。あなたの施設に当てはめて考えながら、学習してください。施設環境づくりについて、詳しく知りたい方は、参考文献5をごらんください。

キャプション評価結果を話し合おう



STEP3

—環境改善計画を考える—

…小グループケアでの環境改善を実現するため…

6 取り組みチームづくり

課題整理の課程で、小グループケアでの環境改善への取り組みとして行う場合について、具体的な進め方を学びましょう。施設全体として取り組む大がかりな改善や工事や大規模な備品・設備の変更を必要とせず、小グループケアの単位（例えばユニット、フロアなど）でケアワーカーが日常の業務の一部として行う環境改善を例にとっています。ケアの単位で行う場合についてわかれば、それを基本として、さらに大規模な取り組みや、より小さな単位での取り組み、個人的取り組みの場合にも応用できるでしょう。

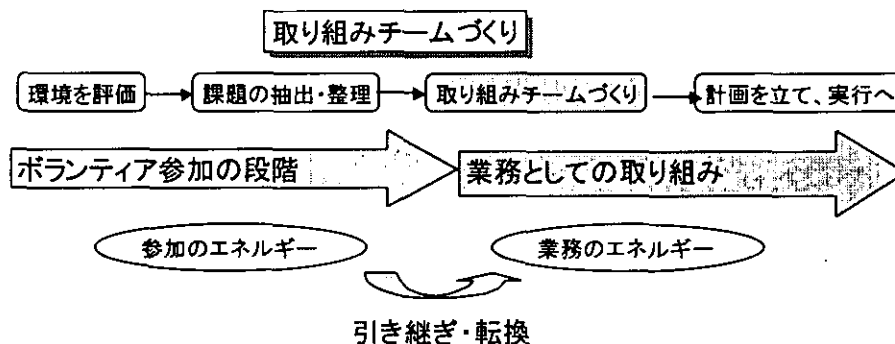
◇◆環境づくりを推進するチーム形成◆◇

キャプション評価法という参加型の方法をとり、評価者として参加したケアワーカーが話し合いをして課題を整理してきましたが、ここまでは「自由参加」「ボランティア参加」として取り組んでいました。

いよいよ改善計画を立て、実行に移していく段階になってくると、「ボランティア参加」で進めていくことには限界があります。環境改善は、業務として位置付けられ、ケアワーカーの仕事の一環として取り組まれることが必要です。このように業務の一部という位置づけがあってこそ、環境改善からケアの質の向上へとつながっていくのです。

この「ボランティア参加段階」から「業務段階」への移行で大切なのが、「業務命令」「指示」のようなトップダウン方式ではなく、一人ひとりのケアワーカーの発見と発想から生まれるボトムアップ方式で取り組まれることです。キャプション評価法で「参加型のおもしろさ」を感じ、気づきや発見があり、課題を抽出して整理するところまでの「参加のエネルギー」をうまく育てて、「業務のエネルギー」に転換することが大切です。

小グループケアの単位（ユニットやフロア）は、日頃からケアチームとしてまとまっており、環境改善がケアに及ぼす影響も直接的に感じとれます。このケアチームを環境改善のチームとして、取り組みチームを作ります。「私たちがよりよいケアをするために環境改善をしよう！」という意欲を、チームで共有して取り組むことが大切です。



7 チームで課題を整理する

チームで取り組む進め方を、事例を通して見ていきましょう。

ここでは、実際に取り組んだ施設の事例を一部編集・構成した事例を使って、手順に従って説明します。

【事例について】以下に紹介する取り組みの事例は、特別養護老人ホーム「たちばなホーム」で実際に行われた取り組みをもとに編集・構成したものです。

◆◆私たちの小グループケア単位（ユニット、フロア等）の環境課題はここにある◆◆

取り組みチームのメンバーであるケアワーカーが日常、ケアを行う環境について、話し合い整理してみました。

課題のある箇所	なぜそう思ったか
① 食堂	食堂奥に、普段使用しないイスや車いすが雑然と置かれていて、見栄えが良くない。食事をする場所なのに、クラブ活動の道具が置かれ、衛生的でない。テーブルが多目的に使用されるため、シミがついて食事をする環境にふさわしくない。奥にある本棚が十分に活用されていない。ゆっくりと食事をする雰囲気ではない。
② 廊下、エレベーターホール	廊下が殺風景で冷たい感じ。廊下のソファが活用されていない。献立表など掲示の仕方が見栄えが良くない。エレベーターホールに洗濯干しや車いすが雑然とある。エレベーターホールはこのユニットの玄関としてもう少し温かみが欲しい。
③ 介護ステーション	乱雑に物品が置かれている。廊下から中が丸見えで、利用者の個人的な書類が見られている可能性がある。
④ 居室	居室の名札が小さくて、面会者にわかりづらい。利用者によっては、衣類が山のようになっていて、整理整頓されていない。ベッドや家具の位置はその方にとってベストなのか？ 居室の掲示物が、テープなどで簡易的にとめられていて見栄えが良くない。

いちばん論議されたことは

食堂、エレベーターホール等のオープンスペースの有効活用と改善について

環境づくりをするにあたり、このユニットで大切にしたいことは

- * 食堂での食事をするという雰囲気づくり
- * ユニット全体に家庭的な温かさを感じられるムードづくり

8 環境改善計画の作成

次に、どのように改善するのか、改善案をつくり、それを実現するための改善計画を作りました。手順にそって進めていきます。

改善案・改善計画づくりの手順	考えた内容		
	食堂	居室	エレベーターホール・廊下
① 改善案を作成するにあたっての基本方針を決める	食事をするという衛生的かつ施設共有スペース(クラブ、行事等)の確保	整理整頓、本人の家である雰囲気づくり	落ち着きとユニットの窓口・玄関と感じられるスペース
② この改善によって期待されるケア上の効果	落ち着いて食事がとれる。また、少しでも家庭的な雰囲気になれる。	“自分の部屋・家”という強い思い入れ	今まで来通りしていた空間が、ふと立ち止まり他者とのふれあいの場になる
③ 改善案をまとめる	<p><パーテーション> 食堂奥にラティスを置き、物置の目隠しにする</p> <p><食堂正面の窓> 障子作りにして、冷たい感じを取り除く</p> <p><入り口右側の鉄戸> 布をたらし、ペンキを塗り、予定表等の掲示物をきれいに見やすいようにする</p> <p><本棚> 移動して、空いたスペースに和風の棚を置き、間接照明を設置する</p>	各居室の整理整頓を行い、居室入り口に表札をつける	食堂にある本棚を廊下の一部に移動し、読書コーナー、談話スペースを設ける 廊下に四季の絵、(利用者)と制作・日常生活の写真を貼る
④ 改善計画の作成	<p><作業内容> クロスを購入 ラティスの購入と設置 ロールカーテンの購入と設置 掲示板の作成</p> <p><予算措置> ラティス@13800×4 布@38×750</p>	<p><作業内容> 各居室の整理整頓 表札の制作</p> <p><予算措置> マグネットフック@100×10 額@620×10</p>	<p><作業内容> 読書・談話スペースづくり 四季の絵、写真額の作成</p> <p><予算措置> タイルカーペット@498×9 スタンド@3980 額@5000</p>

「どのようなケアを行いたいから出発する」

痴呆性高齢者にとって良い環境は、他の高齢者にとっても暮らしやすい環境である、と考える

現実的に実現可能な計画案を作る「予算」「期間」「人手」「範囲」

取り組みはボトムアップです

STEP4

— 実施計画を実施する —

9 実施計画の作成と実施

改善計画を実践するにあたって、実施計画を作ります。実施計画を作る目的は、「なにを」「だれが」「いつ」「どのように」受け持つのかを明らかにしておくことです。計画を表にして書き出すと、作業の流れがはっきり見えます。取り組み事例のチームは、下の表のような実施計画を作りました。【STEP3】の改善計画の表と見比べて、どのように具体化していくのかを参考にしてください。

環境改善実施計画案

項目	作業内容 (打合せ・下見・買い物・片付け・製作・その他作業等)	業務計画			実施記録			
		実施日時	人手応援の必要人数	時間外発生	車頭使用物品	実施日時	作業実施者	その他撮影有無等
食堂内の本棚、ソファへの移動	食堂内奥にある本棚、廊下にあるソファ(2個)を介護ステーション前に移動させ、図書スペースをつくる		なし	なし	なし	2月21日 10時30分～ 12時30分	山田・川野 (仮名)	
食堂奥の整理整頓	食堂奥の車いす、いす、クラブ用具等の整理整頓を行う		2～3名		なし			
ラティスの配置	ラティスを業者から配送後(注文後10日前後で配達とのこと)食堂奥に設置する		2～3名		なし			
居室の表札づくり	各利用者に、事前に表札の細かい作り方の打合せ(写真・絵・名前の字体等)後、表札を設置する。(2週間程度費やす予定)				なし			利用者の嗜好の調査、作成までに2週間、実際の設置は1日
食堂入り口の壁に絵を飾る	絵(1m×1.5m)が届き次第、壁に設置する		2～3名		なし			
図書スペース	左記に、カーペット、間接照明の設置(ドイト南砂店に商品をとりに行き)		2名		なし			
食堂	食堂入り口右側の鉄の扉部分に、布をかける(2か所)(〇〇スーパーマーケットに商品を取りに行き次第)		2名		なし			

環境改善実施計画書② 物品購入計画

購入品	金額	購入方法	支払い方法
ラティス	13,800×4コ=57,960(税込) 送料=2,000円(税込)	△△通信販売に 電話で注文、配送	注文後1～2週間後に届く 代金引換払い
①表札用の額	820円×10コ=8,200	□□日曜大工材料店へ電話 し注文 同店へ取りに行く	物品を取りに行った際に 店頭で支払い
②タイルカーペット	498円×5コ=2,490(黄緑) 498円×4コ=1,992(青)	〃	〃
③フロアスタンド	3,980円×1コ=3,980円	〃	〃
	①②③小計 16,662 税 833 計 17,495円		
マグネットフック (表札用・布田)	100円(2コ入り)×13コ=1360円 (税込)	100円ショップで購入	店頭で支払い

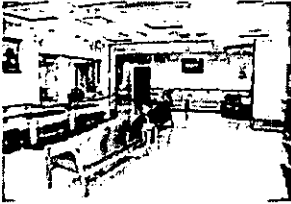
STEP5

—改善した環境を使いこなす—

10 ケアプラン・生活プランに取り入れる

環境改善をしたら、その改善をケアプラン、生活プランに取り入れます。改善計画を立てるときに、「どのようなケアを行いたいのか？」からスタートしたのですから、環境が改善されたことによって、ケアが変わることにつながります。事例の中では、環境改善によってケアワーカーの関わり方が変わるところまでを順を追って見てみましょう。

改善前



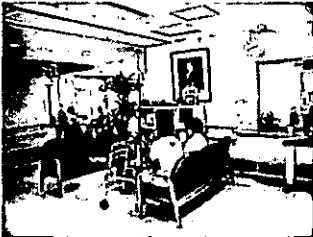
改善前、介護ステーション前の廊下のソファは、病院の待合室のようで殺風景だった。そこに座ってゆっくりしたい気持ちにならなかった。

改善後



ソファを介護ステーションに直角向きに向かい合わせに置き、間接照明を設置、ゆったりとくつろげるコーナーができた。廊下を歩いて来て、ふと立ち止まってゆっくりしたい気持ちになる空間ができた。ソファの近くに本棚を置き、雑誌の表紙や美空ひばりの写真を見えるように置いた。

環境改善でケアも変わった



環境改善は、物理的環境の整備だけではない。ソファに入居者が座っていたら、ケアワーカーが並んで座り、美空ひばりの話を少しする、など、声かけの機会が増える。PEAP日本版3の第8次元「ふれあいの促進」が改善された。

11 改善した環境の維持・見直し

環境改善は、1度行えばずっとそのままでもよい、というものではありません。

日々のケアの中での環境の使いこなしに従って、乱れる、汚れる、傷むといったことが起きてきます。こまめなメンテナンスが必要です。……掃除、片付け、クロスの洗濯、修繕、取替え

また、一定期間が経過したら、見直しも必要です。

見直しの理由は、……飽きる、季節が合わない、入居者の状態が変化する など

例えば、

PEAP日本版3の第5次元「生活の継続性」第8次元「ふれあいの促進」実現を図り、和室にこたつを置いてくつろげる空間を作った。

4月からは、こたつのふとんを取り除き、テーブルクロスに変更する。夏はテーブルの下にゴザや竹カーペットなどを敷き、涼しさを演出。→季節に合わせて変更しながら、PEAPの5、8次元の環境を維持。

ポイント！

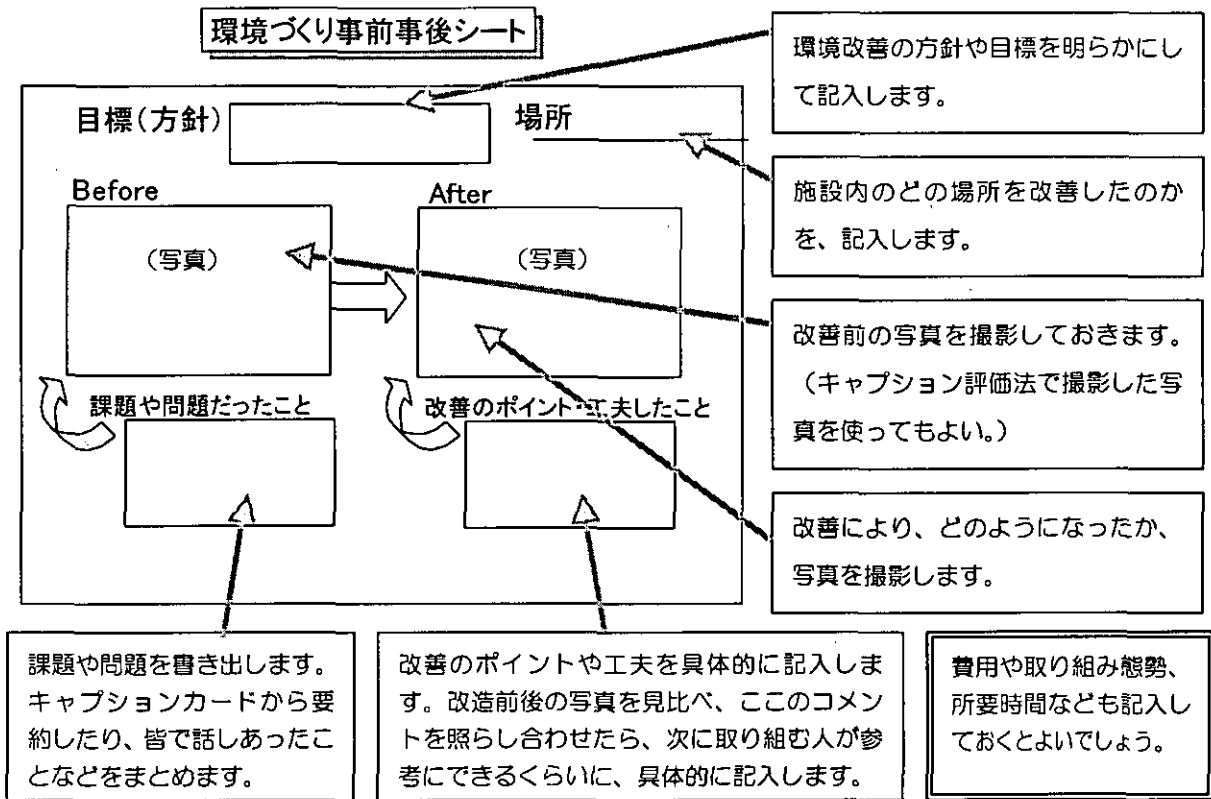
変えるもの、継承するものを選別。入居者の混乱を防ぐために、変えてはいけないものもあります。チームのケアワーカーが変わっても、環境改善の考え方を明確に引き継ぎ、継承し、良い環境を維持することが大切です。

STEP6

—環境づくりの効果を確かめる—

12 環境づくりを記録する

環境づくりの効果の評価の第一歩は、環境づくりを記録することから始まります。どこがどのように変わったか、改善前と改善後の写真をとって、記録しましょう。下に記録用紙のひな型を示します。



13 評価の方法

取り組みの記録をとったら、それを使って、自己評価、施設内の取り組みチーム以外のケアワーカーやその他の職員の評価、利用者、家族の評価、その他の第三者評価など、さまざまな評価をしてみましょう。

取り組みを広く知ってもらうための「発表会形式」の評価は、取り組みチームのケアワーカーやこれから取り組むケアワーカーなど、スタッフの参加意識を高め、成長につながるという長所があります。

14 取り組みの評価

環境づくりに参加したケアワーカー自身が、取り組みのプロセスを評価するために、以下に示すチェックリストなどを活用する方法もよいでしょう。

16 ページの表は、『取り組みのプロセスの評価』チェックリストです「準備期」「実施期」「実施後」の段階の諸項目について取り組んだケアワーカー自身の感想をチェックするものです。

17 ページの表は、『痴呆性高齢者施設環境配慮尺度（実施度）』をチェックするためのリストです。改造前後の環境配慮の状況をチェックして、結果を次元ごとに集計するなど、分析することができます。

18 ページの表は、『個別対応配慮チェックリスト』です。改造前後に行い、比較するのもよいでしょう。

取り組みのプロセスの評価

環境づくりの振り返りをしたいと思います。それぞれの項目について、
いずれか1つ、あなたの感想に近いものに○をつけてください。

＜準備期＞	とてもそう 思う	まあそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全く 思わない
1) 環境的課題に関心を持って見つけたり考えたりすることができた	5	4	3	2	1
2) フロアごとの環境課題を決める際、自分の意見を出すことができた	5	4	3	2	1
3) フロアごとの話し合いでは、メンバーひとりひとりの意見を出し合うことができた	5	4	3	2	1
4) フロアごとの環境改善計画は、利用者の視点からも検討した	5	4	3	2	1
5) 作成された環境改善計画は、納得できるものだった	5	4	3	2	1
6) 環境改善計画は、思い付きでなく目的や効果を踏まえて作成することができた	5	4	3	2	1
7) 計画案について、上司や管理者、専門家など周囲から助言を得て進めることができた	5	4	3	2	1
＜実施期＞	とてもそう 思う	まあそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全く 思わない
8) 改善の実施にあたっては自分なりに関心を持って主体的に関わることができた	5	4	3	2	1
9) 実施にあたっては利用者に説明するなどの配慮を行った	5	4	3	2	1
10) 計画したイメージどおりの実施ができた	5	4	3	2	1
11) 環境づくりをすることで業務負担が増えない配慮がなされた	5	4	3	2	1
＜実施後＞	とてもそう 思う	まあそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全く 思わない
12) 自分は改善した環境を使いこなして(活用して)いる	5	4	3	2	1
13) 利用者は、改善された環境を使いこなしている	5	4	3	2	1
14) 訪れる家族は、改善された環境を活用している	5	4	3	2	1
15) 環境づくりの実施前と実施後で、環境に対して関心が高まった	5	4	3	2	1
16) 一連の環境づくりは楽しかった	5	4	3	2	1
17) 機会があればもう一度取り組んで見たいと思う	5	4	3	2	1

痴呆性高齢者施設環境配慮尺度(実施度)

この調査票は、痴呆性高齢者への環境配慮の実施状況をご記入ください。記入は、取り組み単位(ユニット、フロア等)ごとにお願ひいたします。

記入年月日: 年 月 日

記入者: (チーム・ユニット・フロア:)

問: 痴呆をもつ入居者に対して、次のような環境配慮をどの程度実施していると、あなたは感じていますか。以下の項目について、「4 かなり実施されている」～「1 全く実施されていない」のいずれかに○印をおつけください。

		4 かなり 実施され ている	3 まあま あ実施 されて いる	2 あまり 実施 されて いない	1 全く 実施 されて いない
安全と安心への支援	(1) 廊下や共用空間にいる痴呆のある入居者を、職員が見守りやすいような建物の構造になっている	4	3	2	1
	(2) 痴呆のある入居者のいる建物の出入り口は、職員が自然な形で監視しやすくなっている	4	3	2	1
	(3) ぶつかって転倒の原因となるようなカートや椅子などを、廊下に置かないようにしている	4	3	2	1
	(4) 滑りにくく、転倒してもけがをしないような床の材質になっている	4	3	2	1
	(5) ぶつかってもけがをしないように、家具やカウンターの縁が丸くなっている	4	3	2	1
	(6) 安全に介護をするために、トイレには十分なスペースが確保されている	4	3	2	1
見当識への支援	(7) 痴呆のある入居者が、居室やトイレなどの位置を分かりやすくするために、サインや絵などの目印を用いている	4	3	2	1
	(8) 痴呆のある入居者が、時間経過を分かるように、カレンダーや時計などを意図的に飾っている	4	3	2	1
	(9) 痴呆のある入居者が、その空間で行われる活動を思い起こしやすいように、家具やもので演出をしている	4	3	2	1
	(10) 痴呆のある入居者が自分の部屋をわかりやすいように、インテリア(ベッドカバー、カーペットなど)に変化をつけている	4	3	2	1
	(11) 痴呆のある入居者が時間的な感覚を持てるように、時間的な目印となる活動を設けている	4	3	2	1
	(12) 痴呆のある入居者が、迷わずに方向感覚を持ちやすい廊下のつくりになっている	4	3	2	1
機能的な支援能力	(13) 居住者の生活空間や生活単位を少人数にグループ化している	4	3	2	1
	(14) トイレを各居室に設けている	4	3	2	1
	(15) 食堂やテイルームなどの共用空間に近接して共用トイレを設けている	4	3	2	1
	(16) シャワーや入浴設備を居室に設けている、または家庭的な小規模の浴室を設けている	4	3	2	1
	(17) 入居者が使いやすいような洋服ダンスが居室内に置かれている	4	3	2	1
	(18) 痴呆のある入居者が利用できる台所を設けている	4	3	2	1
環境における留意	(19) 痴呆のある入居者が園芸を楽しめる場所が庭や屋上にある	4	3	2	1
	(20) 痴呆のある入居者が落ち着いて生活できるように、放送設備などの音量を低いレベルに抑えている	4	3	2	1
	(21) 痴呆のある入居者が落ち着いて生活できるように、共用空間でのテレビの音量や視聴時間を調整している	4	3	2	1
	(22) 居住棟の臭いを取り除く工夫をしている	4	3	2	1
	(23) 落ち着いた音楽や会話などを痴呆のある入居者の日常生活の中に取り入れている	4	3	2	1
	(24) 痴呆のある入居者になじみのある時代や文化を反映する絵画などの装飾品を取り入れた環境づくりをしている	4	3	2	1
環境刺激における	(25) 色調、家具、床や壁など施設全体のインテリアは統一がとれ、痴呆のある入居者に視覚的なミスマッチを感じさせないようにしている	4	3	2	1
	(26) 施設内には、痴呆のある入居者に生活を感じさせる香りがある(食べ物、コーヒー、新鮮な花の香りなど)	4	3	2	1
	(27) 痴呆のある入居者が昼夜の区別をしやすいうように、室内の明るさは意図的に昼は明るく、夜は抑えている	4	3	2	1
	(28) 痴呆のある入居者が、居室に思い出の品や写真が飾れるようにしている	4	3	2	1
	(29) 居住棟の共用部分には、スチールなどの事務的なものではない、家庭的な家具が置かれている	4	3	2	1
	(30) 居住棟では家庭的な雰囲気を保つために、施設的機器(カート、収納棚)を目につきにくい場所に置いている	4	3	2	1
生活の支援継続性へ	(31) 入居者の家族が訪ねてきたときに、落ち着いた話ができる場所を用意している	4	3	2	1
	(32) 痴呆のある入居者の生活歴や興味のあることについて、スタッフが情報を共有している	4	3	2	1
	(33) 痴呆のある入居者が興味を持っていたことを、日常の活動の中に生かすようにしている	4	3	2	1
	(34) 痴呆のある入居者にあわせて、入浴方法、時間、温度などに配慮している	4	3	2	1
	(35) 居室に入る前に、職員は扉をノックするようにしている	4	3	2	1
	(36) 痴呆のある入居者が居室の扉を閉めておくことを希望すれば、居室の扉を閉めることを認めている	4	3	2	1
シートの確保	(37) 一日のうち何度か居室から出るように、痴呆のある入居者に働きかけている	4	3	2	1
	(38) 入浴時には、入居者のプライバシーへの配慮を十分行っている	4	3	2	1
	(39) 痴呆のある入居者が少人数で使用するのに適した食堂やテイルームがある	4	3	2	1
	(40) 痴呆のある入居者の希望を取り入れて、自分の着たい服を選べるようにしている	4	3	2	1
	(41) 痴呆のある入居者にあわせて、食事のメニューを選択できるようにしている	4	3	2	1
	(42) 痴呆のある入居者がいる場所を選択できるように、居住棟の各所に椅子を置いている	4	3	2	1
自己選択への	(43) 痴呆のある入居者や家族の希望により、相部屋か個室を選択できるようにしている	4	3	2	1
	(44) 痴呆のある入居者にあわせて、居室の温度、空気、明るさを容易に調整できるようにしている	4	3	2	1
	(45) 痴呆のある入居者にあわせて、寝る時間、入浴の時間を選択できるようにしている	4	3	2	1
	(46) 玄関ホールや廊下に人が集まれるラウンジを設けている	4	3	2	1
	(47) 居住棟にさまざまな規模の交流の場を用意している(多くの椅子が置かれた部屋、小グループ用の部屋など)	4	3	2	1
	(48) 主要な活動の場に隣接して、椅子を配置して活動を眺めることができるようにしている	4	3	2	1
ふれあいの促進	(49) テイルームやラウンジなどの椅子は会話しやすいように配置している	4	3	2	1
	(50) 痴呆のある入居者の社会的接触や交流を促進するさまざまなプログラムを用意している	4	3	2	1

個別配慮チェックリスト

問:個々の入居者の日常生活にどのような配慮をしていますか。以下の項目について、「4 いつもしている」～「1 全くしていない」の中から当てはまるもの一つ○をつけてください。

		4 いつもしている	3 ときどきしている	2 あまりしていない	1 全くしていない
生活歴の理解と交流促進	(1) 入居者になじみのある時代や文化を反映したものを施設内に置いている	4	3	2	1
	(2) 入居者が花や植物に触れられるようにしている	4	3	2	1
	(3) 入居者が庭やベランダに出て、季節感や自然の空気を感じられるようにしている	4	3	2	1
	(4) 入居者の興味のあることを、施設内での活動や役割に生かしている	4	3	2	1
	(5) 入居者の生活歴や興味のあることを、他のスタッフと情報を共有している	4	3	2	1
	(6) 入居者の思い出の品や写真を話題に取り入れた会話をしている	4	3	2	1
	(7) 施設内にある小道具を利用して、入居者と他の入居者の交流を図っている	4	3	2	1
自己選択と自立への支援	(8) 居室やトイレなどが分かるように、サインや絵などの目印を活用している	4	3	2	1
	(9) 排泄や入浴をなるべく自分でできるように配置している	4	3	2	1
	(10) 入居者が衣服の整理をできるように、タンスなどを使いやすく工夫している	4	3	2	1
	(11) 入居者が毎朝自分の希望に合った衣服を選べるようにしている	4	3	2	1
	(12) 日常のレクリエーション活動には、入居者の意思を尊重して、参加したりしなかったりの選択ができるようにしている	4	3	2	1
	(13) 毎日の起床と就寝時間などは、ある程度入居者の希望を取り入れている	4	3	2	1
入居者周辺環境の調整	(14) 入居者が昼夜の区別をしやすいように、室内の明るさに期を配っている	4	3	2	1
	(15) 入居者にとって施設内の音が不快な場合、例えば、大きすぎるテレビの音、他の入居者の大声などにすぐ対応している	4	3	2	1
	(16) ある入居者に接している時も、他の利用者について視野に入れている	4	3	2	1
	(17) 入居者同士の人間関係に気を配りながら接している	4	3	2	1

出典：参考文献 1 秋葉直子 作成

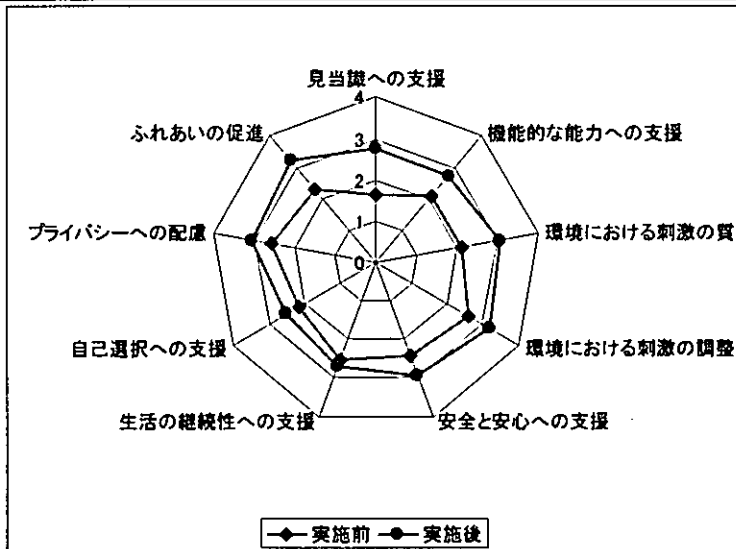
チェックリストのまとめ方

痴呆性高齢者施設環境配慮尺度

【事例】

特別養護老人ホーム「たちばなホーム」(東京都墨田区)では、4つのフロアの平均得点を次元ごとに当てはめて、レーダーチャートに表しました。

施設環境づくりの取り組みの前後で、すべての次元で改善が見られ、特に「見当識への支援」「ふれあいの促進」「環境における刺激の質」が改善されたことがわかります。



個別配慮チェックリスト

【事例】

「たちばなホーム」では、環境づくり前後をみると、実施後に個別配慮が高まるのがみられました。このチェックリストも次元ごとに平均値を求め、前後の比較をすることもできます。

